

## 令和4年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	附属特別支援学校におけるミドルリーダー育成方法の開発
事業実施代表者名	校長 青山 眞二
実施附属学校名	北海道教育大学附属特別支援学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>本校は道南及び道内において研究発信を行うとともに、道南地区の教育相談業務においてセンター的機能を果たしてきた。</p> <p>しかし、教員の特別支援教育にかかわる専門性の向上が求められる中、本校の教員もさらなる専門性の向上を図ると共に、地域のミドルリーダーとなり得る資質・能力を育成する必要がある。</p> <p>そこで、本事業では、職員の専門性向上を図ることを目的とした。事業の方法は以下の通りである。</p> <p>① 特別支援教育にかかわる最新の情報収集と校内での学習会</p> <p>② 客観的なアセスメントの理解と活用方法の学習会</p> <p>①については、教務主任が、国立特別支援教総合研究所主催の特別支援教育専門研修（知的障害コース）に参加した。</p> <p>研修では、オンラインと参集型の方法で講義を受講すると共に、全国から参加している研修員と協議、意見交流、研修課題と成果の発表等を行った。</p> <p>研修終了後は、校内教職員への研修報告を行い、さらに資料を全職員に回覧し、研修成果の交流を行った。</p> <p>②については、客観的なアセスメントの研修（KABC-II、WISC-IV、Vineland-II）、自閉スペクトラム症理解に関する校内研修を実施した。客観的なアセスメントの研修では、講師より、検査の意味・方法・解釈、障害特性等にかかわる説明を受けた後、実際に、本校児童生徒のアセスメント結果を用いて、解釈についての事例検討を行った。</p> <p>自閉スペクトラム症理解に関しては、昨年度に引き続き2度目の研修であった。昨年度対象として取り上げた児童生徒を再度対象とし、一年間の児童生徒の変容をもとに、実態等の変容について検討を行った。</p>
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	<p>①については、特別支援教育（特に知的障害）に関する基本的な内容から最新の動向までがすべて網羅されており、研修内容を本校の教育課程の編成、実施、改善に生かすことができた。また、全国の特別支援学校の実際や課題に関する情報収集を行うことができた。</p> <p>②については、講師による説明のあとに、本校の児童を対象とした事例検討を行ったことで、より、客観的なアセスメントの意味・</p>

	<p>方法・解釈への理解が深まった。また、事例検討の内容を、実際の学習場面で生かし、支援方法の改善につながった。</p> <p>自閉スペクトラム症の理解に関する研修では、改めて障害特性についての理解を深め、知的障害教育の経験年数等の異なる職員間でも、同じ視点で児童生徒の実態を捉えることができた。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>客観的アセスメントについては、改定され新しいバージョンになっている。この研修を通して新しいアセスメントに対する知識と技能の習得及び臨床的活用をしていくことは、本校教職員の専門性が高められると考える。ミドルリーダーの育成として、次年度も校内での研修を進める。</p> <p>また、地域の教職員向けの研修としても発信できる内容であると考えている。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。

支出実績額内訳

(附属学校名 特別支援学校)

区 分	予算額	支出実績額	内訳 (簡潔に記載すること)
旅 費	千円 1 6 2	千円 1 4 1	専門研修
謝 金			
備 品 費		2 1	研究等で使用する機器 (代金一部)
消耗品費			
そ の 他			